



新連載

自動車リサイクル業界を
担うホープ(1)

名前: 京野 新達 (きょうの あらた) (35歳)

所属: 自動車リサイクル機構事務局

勤続年数: 3年8ヶ月

特技: アイスホッケー (社会人チームに所属)

MBTI[※]: INFP (仲介者タイプ)

— 仕事で誰にも負けない部分

忍耐力 (コツコツ進めるタイプです)

— この業界の魅力を一言で

普段行っている業務が地球環境の保全
に直結しているところ。

— 将来の業界への期待

一生懸命で真面目な人がキチンと認め
られるような業界になって欲しいです。今回はお手本ということで事務局から
のご紹介ですが、次回から解体業界の
ホープをご紹介します。※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【新連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 —— P.1

JAERA 広報部会の取組み紹介 / ブロック会議の報告 (中国・四国) —— P.2

第15回業界景況調査の結果 —— P.3.4.5

2024年度 J-FAR 事業の説明 —— P.6

2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 3月出荷状況 /
3月新車販売・使用済自動車発生台数 —— P.7

鉄スクラップ最新情報 —— P.8

行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.9

巻頭言

広報部会

伊地知 志郎

家庭や企業の電気・ガス代負担抑制のための補助金について、2024年5月使用分をもって一旦終了となります。一方、ガソリンや灯油など燃料価格を抑える補助金は4月末であった期限が延長されるようで、解体事業者にとっても非常に助かる話です。

一時期は鹿児島県もガソリンのレギュラー価格が180円を超え、生活に大きな影響を及ぼしましたが、現在の価格は落ち着いています。ただ、種々の物価高騰に加え、6月の使用分からは電気・ガス代の補助金もなくなるため、暑さだけではなく財布にも厳しい夏となりそうです。

エアコンを使う時期に差し掛かっていますが、不要な場合はこまめに消し、使うべき時にはしっかりと使うといった分別が必要だと感じています。当社でも重機やプレス機で軽油や電気などを消費しますので、少しでも生産効率をあげて節約に繋げていけたらと思っています。

01 ▶ JAERA 広報部会の取組み紹介

部会紹介シリーズ第4弾、今回は広報部会の取組みをご紹介します。

【部会構成】

田村幸男（福島県） 木村香奈子（愛知県） 永田則男（山形県） 小宮山敬仁（東京都） 伊地知志郎（鹿児島県）

【主な活動内容】

■JAERA ニュースレターの企画・取材・作成 ■機構HPやSNS、バナー広告などの運営

広報部会はニュースレターの作成を軸として、毎月開催される会議を通して活動を行っています。

他の機関紙にはない温かみと身近さ、変化が著しいこの業界の皆様のプラスとなる情報提供をテーマに、部会全員の様々なアイデアや知恵を集約してこのニュースレターは作成されています。



広報部会の様子

| 広報部会から一言

日頃から多くの皆様に見ていただきたい一心でこのニュースレターを作成しています。どのくらいの人に見てもらえているかの指針としているダウンロード数ですが、2023年度はメールマガジンの配信回数やタイミングなどの周知に注力した結果（2022年度と比較して）2倍に増えました。今では業界内外問わず毎月約1,000回ダウンロードしていただいております。特に国や関係団体の方からも毎月読んでいただいているという声も多く頂戴しております。

今月号からはデザインを刷新し、今後は一般会員の皆様にメリットのある内容に限定した賛助会員の紹介（商品やサービスなど）も予定しております。どうぞご期待ください。

また、皆様からのご意見や情報提供もいただきながら、みんなで創るニュースレターにしていきたいと思っております。下記URLから投稿が出来ますので、よろしくお願いたします。

ニュースレターへのご意見・ご要望・情報提供はこちらから▶

<https://forms.office.com/r/eZgintdcVZ>

02 ▶ ブロック会議の報告

中国・四国ブロック会議



懇親会の様子

4月2日（火）中国・四国ブロック会議及び工場見学会が株式会社ヤツヅカ（愛媛県伊予市）にて開催された。

会議では各地の状況を確認するとともに、引取台数の少ない厳しい環境下での対策として、レンタカーをはじめとする多角化についての意見交換が行われ、会議の後に同社の工場見学会も行われた。今回会場にもなった愛媛県はしばらくの間、会員のいない空白県であったが、中国・四国ブロックと（株）ヤツヅカの八東代表取締役の働きかけにより新支部が立ち上がったところである。今後の愛媛県支部の取組みとしては、会員数を増やすため県内非会員の解体事業者に広く声掛けを行っていくとのこと。後に行われた懇親会では総勢19名もの方々が集まり活発な交流が行われた。

03

第15回 景況調査報告 2024年1～3月期

集計・分析：長崎大学 経済学部 教授 木村真実

全てのDI値でマイナス幅が減少するも 依然 マイナスが続く

景況調査は商工会議所でも行われています。たとえば、さいたま商工会議所では、管内の景気動向を把握するために、四半期ごとの景況を、アンケートによって調査しています。直近の調査(2023年10～12月期)では、会員企業222社から、123の有効回答(有効回答率55.4%)を得ています。会員の業種は、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業です。報告書によれば「全体の業況判断DIは、2期連続の好転から▲13.9と、8.9ポイントの悪化に転じた。全体として、原材料・仕入れ価格の高騰が各企業の収益を圧迫しているが、一方で価格転嫁から販売価格の引き上げが浸透し、売上単価の上昇も継続して見られる。」ということです(<https://www.saitamacci.or.jp/page-1200/>)。

【調査要領】

- ①調査期間：3月15日(金)～3月29日(金) ②対象企業：日本自動車リサイクル機構会員企業
 ③調査の方法：FAX・Webの送受信による自計記入を求めた。 ④回答企業数：459社のうち124社(27.0%)から回答を得た。
 (うち、有効回答数122)
 ⑤平均従業員数：役員を含む正規従業員数 39.2人(前回37.8人) 派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 9.8人(前回15.6人)
 ※DI値(DI: Diffusion Index) 「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの ※:本文中の「△」はマイナスを意味する。

今回の調査結果についての詳細や解説などは、以下の「報告書版」からご覧ください。

報告書版はこちら▶

<https://www.elv.or.jp/media/20/20240423-keikyo15.pdf>

■次回2024年4～6月期の調査につきましては、2024年6月14日(金)～6月28日(金)に予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

図1では第1回景況調査(2020年7-9月期)から第15回景況調査(2024年1-3月期)までの、前年同期比のDI値の推移を示す。前回調査(2023年10-12月期)と比べて、業況判断は10.4ポイント好転、売上高は7.0ポイント好転、経常利益は3.9ポイント好転、そして資金繰りは7.8ポイント好転であった。全てのDI値で好転しているが、2022年3月調査から、マイナスの値は続いている。

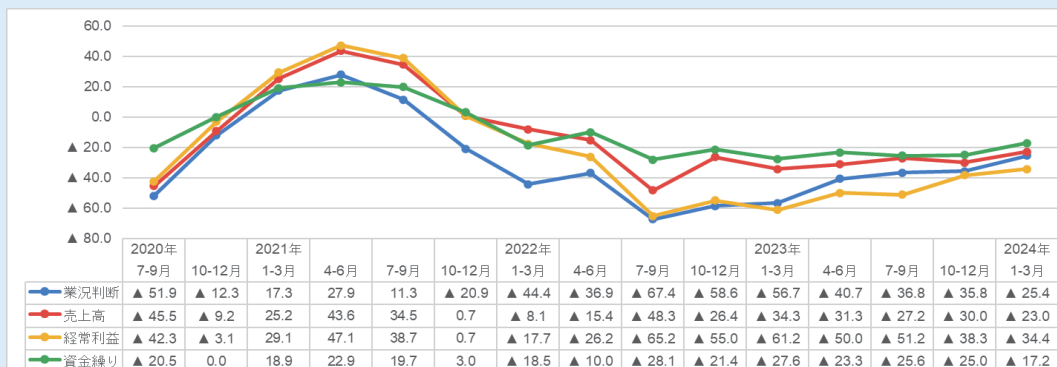


図1 前年同期比でのDI値の推移

そして、以下の表1では、2024年1～3月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りの動向を、前期比、前年同期比、次期見通しで示す

表1 業況判断、売上高、経常利益、運転資金調達の動向

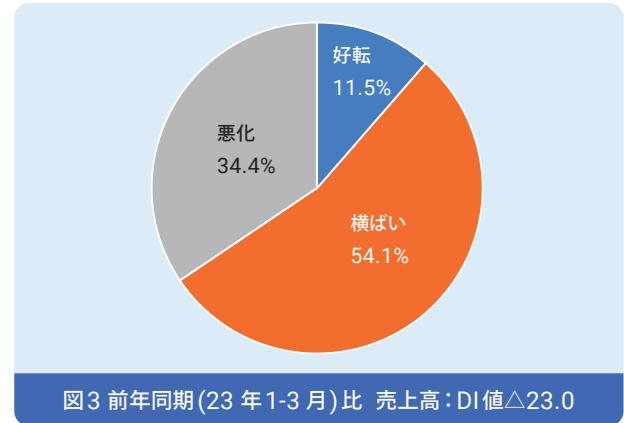
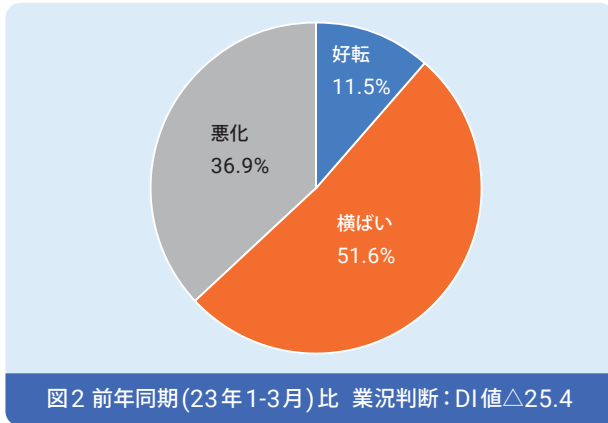
	前期比(2023年10～12月と比べて)				前年同期比(2023年1～3月と比べて)				次期見通し(2023年4～6月と比べて)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
業況判断	9.8%	55.7%	34.4%	-24.6 (-33.3)	11.5%	51.6%	36.9%	-25.4 (-35.8)	8.2%	61.5%	30.3%	-22.1 (-25.8)
売上高	17.2%	57.4%	25.4%	-8.2 (-27.5)	11.5%	54.1%	34.4%	-23.0 (-30.0)	9.8%	65.6%	24.6%	-14.8 (-20.8)
経常利益	12.3%	45.1%	42.6%	-30.3 (-37.5)	11.5%	42.6%	45.9%	-34.4 (-38.3)	7.4%	54.1%	38.5%	-31.1 (-30.0)
資金繰り	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値
	3.3%	77.9%	18.9%	-15.6 (-15.8)	4.9%	73.0%	22.1%	-17.2 (-25.0)	4.1%	73.0%	23.0%	-18.9 (-22.5)

注：DI値欄のカッコ内の値は前回調査時のDI値です。

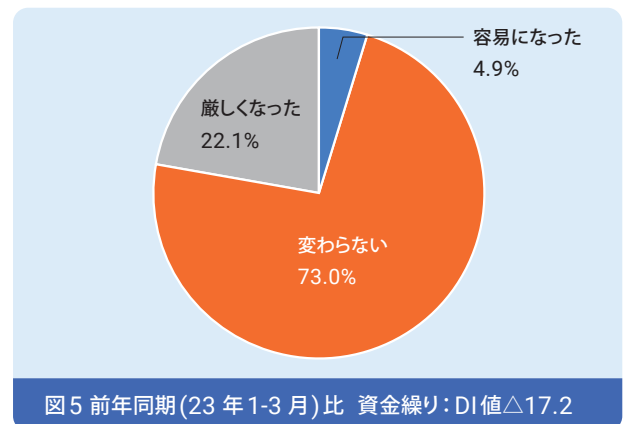
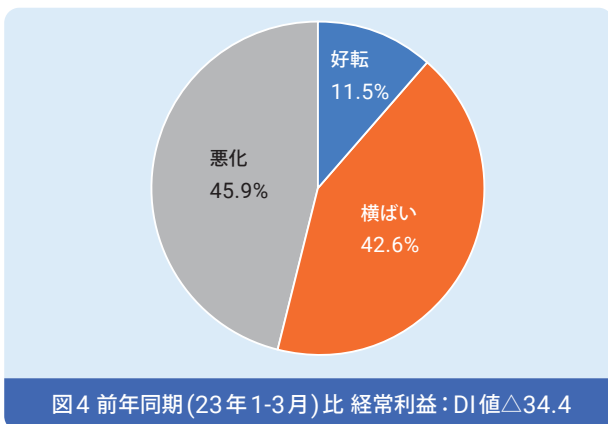
1 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2024年1～3月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期比（2023年1～3月比）との比較が図2から図5である。

回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△25.4（前回△35.8）、売上高が△23.0（前回△30.0）、経常利益が△34.4（前回△38.3）、および資金繰りが△17.2（前回△25.0）であった。



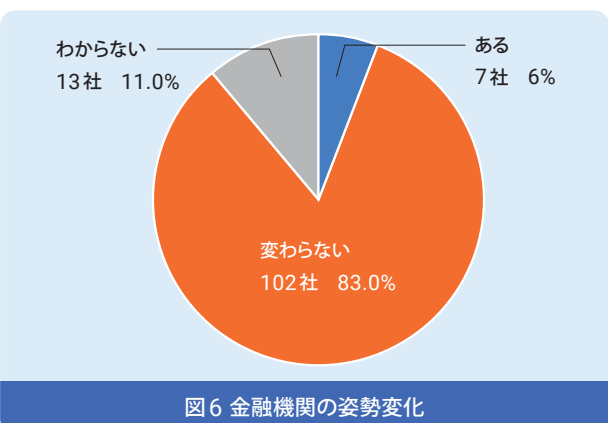
注: グラフ値から算出したDI値は端数処理により差異がございます。



2 金融機関の姿勢変化の有無と内容

2024年1～3月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が7社・6%（前回2社・2%）であり、「変わらない」が102社・83%（前回99社・82%）であった（図6参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢3社（前回1社）、追加担保要請1社（前回無）、新たな貸し渋り1社（前回無）、その他2社（前回1社）であった（表2参照）。



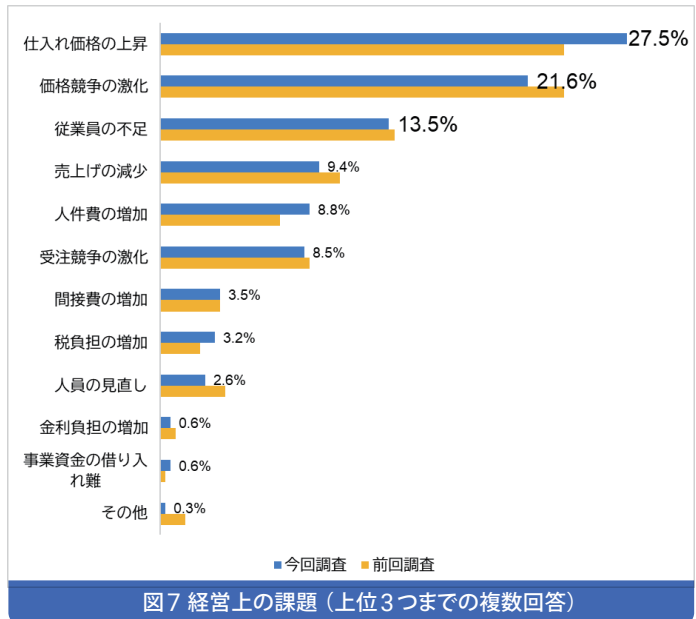
貸付攻勢	3社
追加担保要請	1社
新たな貸し渋り	1社
その他(外国送金の遅延(入金されるのが遅い)、昔より面倒になった.金利抑制ができない)	2社

表2 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

3 経営課題と取り組み等

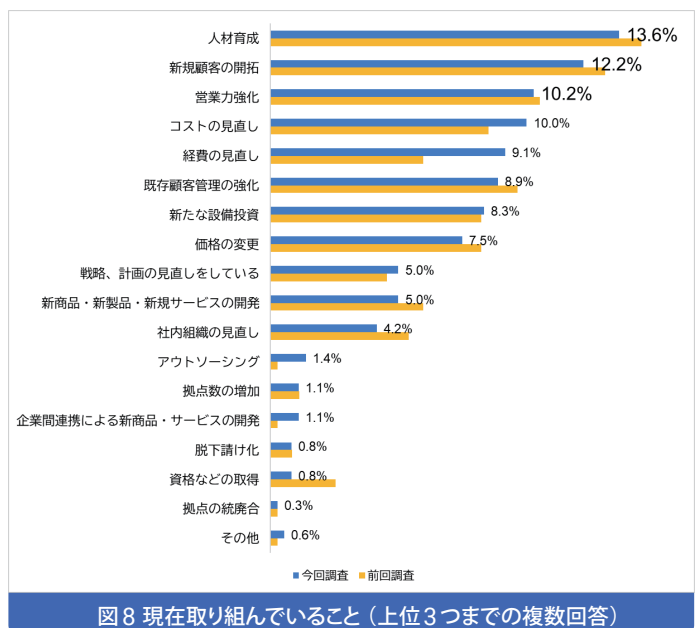
① 経営課題

2024年1～3月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇(94社・27.5%)、価格競争の激化(74社・21.6%)、従業員の不足(46社・13.5%)が上位であった(図7参照)。



② 現在の取り組み

2024年1～3月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、人材育成(49社・13.6%)、新規顧客の開拓(44社・12.2%)、営業力強化(37社・10.2%)であった(図8参照)。



③ お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。

※原文のママ掲載。「特に無し」の回答を除く。個人等の特定箇所を ■■■ とした。

- スクラップ・自動車解体業の業者全体なのだと思いますが、古物商のみを持った■■■がスクラップ・廃車・廃家電を集めている。ほとんどの■■■は何の許可も持たず集めている様です。千葉や埼玉などでは違法ヤードが問題になっていますが、全国で許可の必要なものはきちんと許可を取らせるか。もしくは取り締まりをするべきだと思います。
- 円安の影響なのか車両買取で■■■に買い負けしている様に感じます。解体業の許可を持つ■■■、持たない■■■、特に持たない■■■に対しての取り締まる機会がない様に感じます。怖いので入らないという話も聞きます。資源循環は、国においても重要な施策であるならば、根本から見直して欲しいです。
- 人の雇用と仕入れ価格の高騰で昇給までなかなか難しい。能登のお客様の事業継続が難しく顧客減少など先行きが読めない。
- 電帳法により事務作業の負担が増えた。

04 ▶ J-FAR 助成事業

資源回収インセンティブ制度に係る実証事業が採択

2026年4月に開始予定の「資源回収インセンティブ制度」(以下、本制度)に関して、JAERAを代表事業者とした実証事業が(公財)自動車リサイクル高度化財団(J-FAR)の助成を受け、2024年度より開始されます。今号では本制度の概要と実証事業の概要を紹介します。

資源回収インセンティブ制度

ユーザーが新車購入時に預けるリサイクル料金は、①シュレッダーダスト(ASR)、②エアバッグ類、③フロン類の3つの再資源化や適正処理などで発生する費用に加え、④情報管理料金、⑤資金管理料金の合計5つの料金が合わさって設定されています。

図1で示すように、本来ASRになるはずであった「樹脂」などの資源を、我々解体事業者などが使用済自動車から回収することでASRの重量が減少し、その分ASRの処理料金も減額となります。本制度のインセンティブは、この減額となって捻出されたリサイクル料金を原資としています。つまり、インセンティブは、リサイクル料金の設定時から考慮して含まれているものではなく、あくまでASRが減少した結果として生じるリサイクル料金の余剰を原資として支払われることとなります。

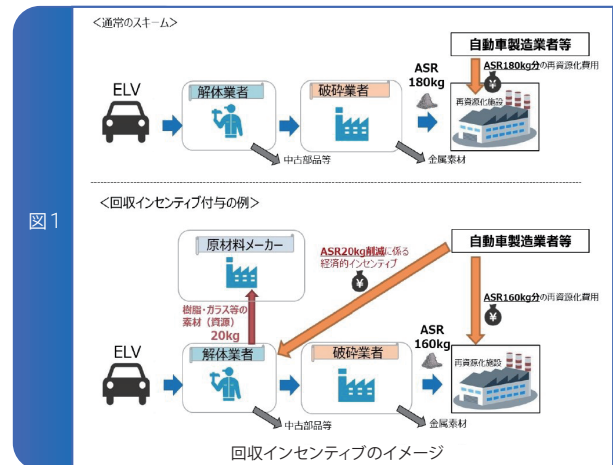
実証事業概要

本制度の開始まで2年を切っていますが、2026年4月から単独で参加が可能なのは、既に樹脂回収を行っている大規模解体事業者、または破砕機を保有する解体事業者であると予測されます。しかし、ELV引取台数の約8割を占めるのは中小規模の解体事業者であり、ASRの削減・使用済自動車由来の資源循環の促進を目的とした本制度において重要なプレーヤーとなります。

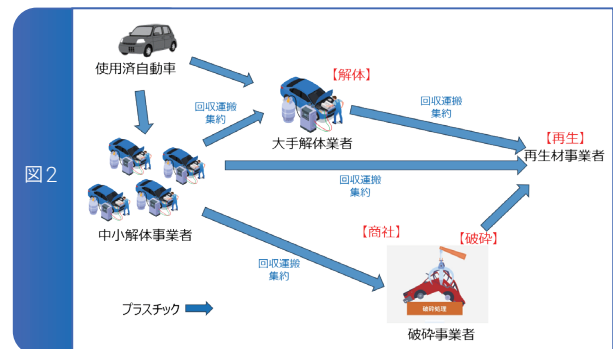
そこで、JAERAでは事業規模に関係なく、中小規模の解体事業者も本制度に参画しやすい仕組みを作るために、今回の事業を実施することになりました。

本制度への参画には、特定地域での解体、中間加工、破砕、電炉、再生材事業者、および商社などで共通の目標のために組む共同体、いわゆるコンソーシアム形成が不可欠です。ただ、回収した樹脂をどこに集め、誰がどのような処理を行い、どうやってコストをかけずに効率的に運ぶかを考えると、図2に示すように、様々な回収ルートが考えられます(例えば、破砕事業者が集約拠点となり、周辺の中小解体事業者から廃車ガラに併せて積載して回収樹脂を集約するなど)。

本制度についてJAERAでは継続して情報を収集・整理を行っていきます。何かご不明な点がございましたらJAERA事務局までご連絡ください。また、今後ニュースレターでも本制度や実証事業に関する記事を掲載する予定です。



出典：産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会 自動車リサイクルWG 中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会 第57回合同会議 参考資料1 使用済自動車に係る資源回収インセンティブガイドライン(中間取りまとめ)



パターン	目的	一次解体	二次解体	粉砕・(選別)	廃車ガラ引取り	再生材
1	中小解体事業者 + 大規模解体事業者集積型	中小解体事業者	大規模解体事業者	破砕事業者	再生材	再生材
2	全部再資源化向け大規模解体事業者	大規模解体事業者	電炉	再生材	再生材	再生材
3	中小解体事業者 + 再生材事業者集積型	中小解体事業者	再生材事業者	破砕事業者	再生材	再生材
4	中小解体事業者 + 中間加工事業者集積型	中小解体事業者	中間加工事業者	破砕事業者	再生材	再生材
5	中小解体事業者 + 破砕事業者集積型	中小解体事業者	破砕事業者 (選別工程で異物除去)	再生材	再生材	再生材
6	中小解体事業者 + 解体及び破砕許可保有の大規模事業者集積型	中小解体事業者	解体・破砕事業者 (選別工程で異物除去)	再生材	再生材	再生材

※一次解体＝樹脂部品を取り外す行為
 ※二次解体＝一次解体した樹脂部品から異物を取り除く行為

今回の事業では、図3に示す6つの想定パターンに分類し、それぞれで回収トライを行い、課題の洗い出しや追加検討事項の確認、改善策の提示などを進めます。また、最終的には、コンソーシアム形成の様々なモデルケースの確立と、回収した樹脂を取り扱う際に必要な現場での作業や管理の工程別管理・実作業内容集を作成します。

05

2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業
3月出荷状況と2023累計

上段：3月出荷数 下段：2023年度累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウス α 41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
20	6	36	2	0	54	0	2	1
69	92	424	9	1	628	14	12	11

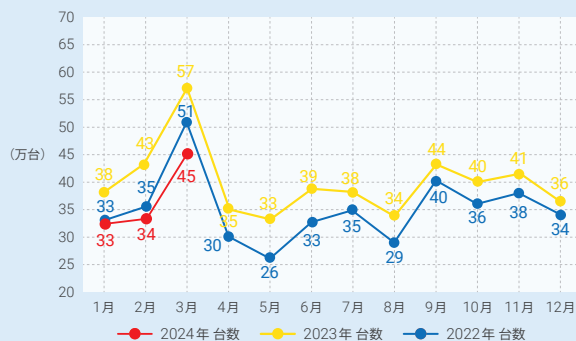
SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A~C	合計
1	0	1	2	1	0	1	32	139
12	61	25	14	4	0	2	209	1518

2022年度の結果はこちら ▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

06

3月新車販売・使用済自動車発生台数

2024年3月度 新車販売台数 451,444台 (前年同月比78.9%)

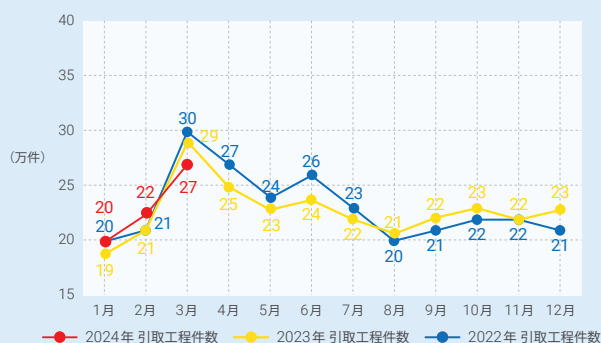


新車販売の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会

過去の新車販売台数推移		
年累計	台数	前年比 (%)
2024年 (3月まで)	1,131,140	81.9
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2010年	4,598,615	88.5

2024年3月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



使用済自動車引取件数の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

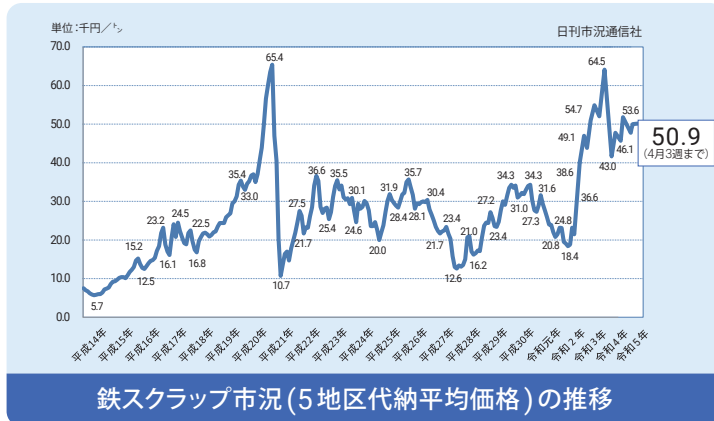
引取件数	
3月	265,008件 (前年同月比91.1%)
フロン回収工程	
3月	234,714件 (前年同月比91.8%)
解体工程	
3月	266,638件 (前年同月比91.6%)

07

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

4月第4週（22日）の鉄スクラップ動向



3月28日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,000 ~ 51,500	値下がり
	南関東	50,000 ~ 51,500	値下がり
	浜値	49,000 ~ 51,000	軟調
名古屋		50,000 ~ 51,500	様子見
関西	大阪	51,000 ~ 52,500	様子見
	姫路	50,500 ~ 51,000	様子見

東日本相場が500～1,000円下落 東鉄宇都宮の製鋼トラブルで

北海道を除く東日本市場の需要家筋の間に19日、鉄スクラップ購入価格を1トあたり500～1,000円どころ値下げする動きが広がった。東日本相場の値下がりりは3月中旬以来約5週間ぶり。この値下げりで、東北市場のH2中心値が5万円を割り込み、新潟相場の安値、関東相場の一部安値も5万円を下回った。

東日本市場の鉄スクラップ相場は、3月中旬の下落以降、様子見商状の推移を続けてきた。関東市場では電炉購入価格に対して先行安だった浜値が上げ戻す動きとなり、下げ止まり感が台頭していた。

しかし、東京製鉄宇都宮工場で4月上旬、製鋼トラブルが発生し、製鋼を休止した。4月末までに復旧する見通しだが、この間の鉄スクラップ消費がないため、購入価格を引き下げて入荷量を調整することとした。同工場は18日以降、ヘビー、新断、シュレッダーのみを荷受けする荷受制限を実施。20日は荷受けを休止し、22日8時から3品種の荷受けを再開する。

この動きに関東、東北、新潟市場の需要家筋が反応。入荷や在庫状況によって、品種別も含め事業所別に500～1,000円の値下げを実施した。製鋼トラブルによる相場下落のため、影響は関東とその周辺にとどまり、北海道や東海以西の各市場は様子見商状が続く。

関東 需要家筋が概ね1,000円の値下げ実施

関東市場の需要家筋の間に19日、鉄スクラップ購入価格の値下げ改定が広がった。電炉筋の値下げ幅は500～1,000円。湾岸商社・シッパー筋はH2を1,000円どころ、上級玉を500～1,000円値下げした。H2炉前実勢価格は50,000～51,000円中心、高値51,500円見当へと下落した。H2浜値は5万円中心に下落し、高値・安値も散見される状況だ。また東北・新潟市場の電炉筋も19日、500～1,000円どころの値下げ改定を実施した。

東海 東鉄田原の静観もあり概ね様子見商状

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、様子見横ばいで月下旬へと向かう見込みだ。4月の初めから目立った強調材料はなかったため、問屋筋は在庫をストックせず出荷を続けてきた。発生面が芳しくなく、中旬頃までにメーカー間には3月に下げ進めた部分の値戻しや一部品種には再値上げも行われたが、東京製鉄田原工場の静観もあり足元は様子見機運が高まっている。H2炉前実勢価格は50,000～51,000円中心、高値51,500円見当。

大阪 方向性定まらず市況は様子見推移

大阪地区の市場は様子見が続いている。電炉筋の多くは安定した水準を保ち、需給面に不安のないまま4月下旬を迎えた。市中発生量は引き続き振るわず、ヤード業者筋の入荷に停滞感が見られる。複数の電炉筋は在庫量の維持もしくは積み増しに向けて、一定量の入荷を促しておきたい意向が強いが、地区要因では動意材料を欠いた状況にある。H2炉前実勢価格は、大阪地区が51,000～52,500円中心、姫路地区が50,500～51,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、4月22日午前時点のもの)

08 ▶ お知らせ

2024年度定時社員総会のご案内

日本自動車リサイクル機構、2024年度定時社員総会は前年に引き続き、対面とWEBを併用した形式での開催を予定しております。詳細が決まりましたら別途ご案内させていただきますので、皆様ご確認の程よろしくお願いたします。

ご案内

- 日時：2024年6月20日（木）13：00 開始
 - 場所：鉄鋼会館（東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10）
 - 開催方法：対面とWEBのハイブリッド（前年同様）
- ※会員交流会として資源回収インセンティブ制度に関する講演を予定しています。

編集後記



最近スマホのバッテリーが一日も持たなくなりました。5年以上毎日使っていますから仕方ないなと思っています。目まぐるしく変化する世の中で、これほどまでにコミュニケーションの在り方を変えたツールは正にこのスマホに他なりません。一方で私達の大切な時間などが知らぬ間に奪われている場合もあります。

毎朝スマホのアラームで目を覚ましますが、アラームを止めた後、ついメールの確認やらSNSのチェックをしてしまい、多い時には数十分も寝床で時間を浪費してしまいます。また、手帳を使わずスマホでメモを取っている姿を近頃多く見かけますが、私はメモやスケジュールは手帳に書き込んでいます。それは、手書きだと記憶に残りやすく、手帳を開くたびに、その日感じたことなどを思い出すキッカケにもなり、こういったデバイスから敢えて離れることで、集中力向上や創造力の促進に繋がるのではないかと考えているからです。

…とは言いながら最近、その手帳に書いたことすら忘れる始末で、予定は手帳のみならず、卓上カレンダーにも同じメモを記入しています。

このニュースレターもスマホで見られる時代となりましたが、原点に戻って紙ベースで読者に届けられたらもっと多くの人に読んでもらえるのかなと思ったりしますが、今や現実的ではありませんね。

広報部会長 田村 幸男

5 月の主な行事予定

- 9日(木) | 第2回広報部会 (WEB)
- 10日(金) | J-FAR (ガラスリサイクル) 委員会 (対面・WEB)
- 14日(火) | J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
第1回理事会 (WEB)
- 16日(木) | J-FAR (資源回収インセンティブ実装事業) 定例会 (WEB)

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

